

に入るとか。名を性空(しょうくう)といい、案内人によると日本では僧侶も妻をめとるが、性の空(からっぽ)のことだそうである。この日もマレーシアから尼さんが表敬訪問し寄進しておられ、一筆書を揮毫されておられた。最後にいったところはシルク博物館である。蚕に関する資料や絹についての織物を紹介しているが、規模だけ大きくて、日本各地にある郷土資料館の養蚕資料のほうが興味深く感じた。どちらかという博物館に併設してある土産物を買わずため連れてきた感じがしたので一切ショッピングはしなかった。

1月15日 どうも雨男らしく、筆者が上海へいくと毎回雨が多い。今日も雨模様である。まず、上海自然博物館へタクシーで乗りつけたが、お休み。続いて友誼商店古玩分店へいくが改築中でお休み。仕方がないのでシャンゼリゼ通りと称される淮海路へ行って娘のショッピングに付き合った。雨が止みそうもないので大きな扇を買うため友誼商店へめざした。昼食がまだだったので友誼商店前の〇〇酒家へいき、さっぱりわからないまま中華料理をたのんだ。知らないままに北京ダッグをはじめ大きな魚を茶碗蒸してまいたようなものなど6品も出てきて多く残してしまうことになった。その後友誼商店へいき大きなチョウ扇を入手。しかし、うまく通じなくて約8人の店員さんと交渉し購入した。娘は麵塑細工(小麦のようなものを練った粘土のようなもの)で自分の肖像を作成してもらいご満悦の様子であった。時間の関係でタクシーでホテルに戻った。1昨年前に通訳をして頂いた方さんと6時に会う約束をしていたため、久しぶりに再会できた。その後まだ夕食を食べる雰囲気ではなかったので、昨日に引き続き友誼商城へ出掛け、中国の紡績関係の大学のファッションショーをみて過ごした。それから前回訪問から懇意にしている中国民芸の有名な作者たちに自分の切り絵(もちろん虫つき)などを作ってもらったり、草編みの昆虫を入手したり、京劇の面に蝶の絵を書いた相坂耕作的胡蝶なる特製のものを作成して

もらったりして軽食を買い込みホテルに帰った。

1月16日 朝便の飛行機に乗るため8時10分の集合となった。そのため早くから食事をとりいつでも帰れる態勢をとった。迎えのバスがきて乗り込み早速出国の準備が始まった。現地係員と別れ、いよいよ上海再見となるわけだが一向に搭乗させてくれない。原因がなにかわからないうち約1時間30分遅れで離陸し機上の人となった。

今回も、何かと種々いような昆虫民俗資料が入手できラッキーな旅となった。

---

## イシガケチョウの記録

### 唐土 洋一

---

セイダカアワダチソウの花で吸蜜しているテングチョウを写真撮影していたところ、イシガケチョウが山の上方より降りてき、付近を滑空した後、セイダカアワダチソウの花で吸蜜を始めた。近寄ると、すぐ飛び立ち付近に生えているヨメナ、イタドリ、セイダカアワダチソウの花といった順で吸蜜していった。

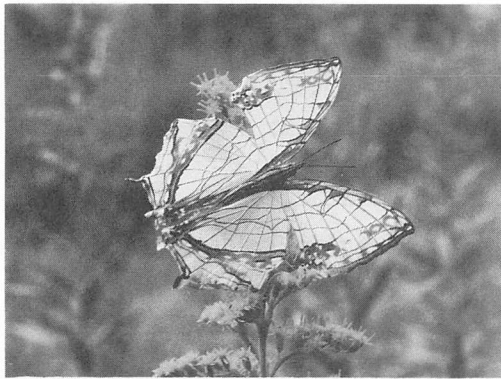
1996年10月23日 午後2時30頃 相生市矢野町小河にて1♀(黄色型)採集。

イシガケチョウはこのところ、少ないながらも毎年観察出来るようになった。これまでに私が記録(目撃)したのは次の通りである。

- ① 1ex. (白色型) 目撃 1994年6月16日 美方郡温泉町霧ヶ滝溪谷……文献1)
- ② 1♀ (白色型) 1994年8月24日 岡山県英田郡西粟倉村景清
- ③ 1ex. (白色型) 目撃 1994年8月28日 相生市矢野町三濃山(鍛冶屋谷)……文献1)
- ④ 1♀ (黄色型) 1994年10月16日 赤穂市周世……文献1)
- ⑤ 2ex. (白色型) 目撃 1995年6月25日 龍野市

揖保川

- ⑥ 1♀(黄色型)目撃 1995年10月10日 相生市矢野町小河
- ⑦ 1ex.(黄色型)目撃 1995年10月10日 相生市矢野町小河
- ⑧ 1♀(白色型) 1996年6月13日 揖保郡揖保川町馬場



イシガケチョウ♀

相生市矢野町小河 1995. 10. 10 撮影

#### <参考文献>

- 1) 難波通孝(1994)イシガケチョウの飛翔 自刊・岡山
- 2) 難波通孝(1996)岡山の蝶 山陽新聞社・岡山

## 兵庫県南西部のウマノスズクサと ジャコウアゲハ 唐土 洋一

ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサは田畑の畦、河川の堤防、墓地等に広く分布していたが、道路拡幅工事、ほ場整備工事、河川の改修工事等でめっきり減少してしまい、ジャコウアゲハも地域によっては稀少種になってしまったようだ。

1. ウマノスズクサ分布の概要  
相生市 佐方・青葉台(植栽)

若狭野町入野・若狭野・下土井

- 矢野町下田・上・三濃山・能下・釜出
- 赤穂市 有年牟礼・木津
- 龍野市 中垣内
- 上郡町 野桑・金出地・岩木甲
- 揖保川町 馬場
- 新宮町 栗町

上記外の市町にも分布していると思われるが、調査不足で確認していない。

### 2. ジャコウアゲハの特異性

雌蝶はランダムに卵を産みつける。人間のように産児制限といったことはしない。もう少し、食草とのバランスを考えて産めばよいのに……。

沢山産まれた卵から幼虫も孵化する。理解出来ないのは、なぜ、食草の茎を喰いきり、枯らしてしまうのか。この習性がなかったら、餓死せずもっと多くの成虫が羽化出来ると思うのは、短絡的な考えか。

### 3. ジャコウアゲハ受難の例

- 1) 河川の堤防上、田畑の畦に生えているものは、丁度、産卵等が終り若令幼虫時に環境整備のために、刈り取られてしまう。
- 2) 同じく、晩秋に火入れ等で焼き払うこともある。
- 3) 墓地等では、盆前に環境整備のために刈り取られることもある。

上記に示した例のように、通年をとおして観察出来る場所は少なく、食草のみで蝶がいないうところも多々出てきている。

### 4. 保護の例

ジャコウアゲハは平成元年に"姫路市の蝶"に指定されている。姫路市青山にある「自然観察の森」ではウマノスズクサを植栽し、この蝶を多数繁殖させている。これからは、特定の場所に食餌植物を植え蝶を呼び寄せ、繁殖させることも一つの方法かもしれない。